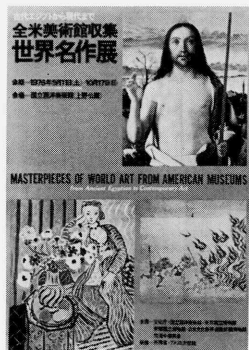


事業記録 昭和51年度

特別展記録



* 全米美術館収集世界名作展

—古代エジプトから現代まで—

1976年9月11日～10月17日

主催：国立西洋美術館・文化庁・東京国立博物館・
京都国立博物館・日米文化教育会議米側博物館交流
小委員会

出品内容＝絵画43点、素描3点、彫刻28点、工芸6
点 計80点

アメリカ合衆国には、その歴史の浅さにもかかわらずヨーロッパに劣らないすぐれた美術館があり、その数は主要なものだけでも350余館にのぼり、これに対する総入場者数も膨大な数に達している。ヨーロッパの大美術館が総じて、王侯貴族の個人的なコレクションを母胎としているのに対し、これらアメリカの美術館は、文化は地域社会の住民みずからが守り育てるものというアメリカ人の強い自覚をバックボーンとして、それぞれの地域社会のリーダーシップのもとに生れたものが多い。またそのコレクションも特定の時代や国に偏らず、人類史的な広い見地から古今東西の美術品を包含している。アメリカ独立200年を記念して開催された本展は、全米45の美術館の協力のもとに組織されたもので、古代エジプトから現代まで、約5,000年にわたる東西美術の名作が出品され、併せて上に述べたようなアメリカの美術館のコレクションの特色を十分に発揮したものとして多大の好評を博した。



* ヴァン・ゴッホ展

1976年10月30日～12月19日

主催：国立西洋美術館・オランダ国立ヴァン・ゴッ
ホ美術館・東京新聞・中日新聞・中部日本放送

出品内容＝絵画18点、素描・水彩82点、計100点

ヴァン・ゴッホ展はすでに我が国でも一度開かれ、人々に多大の感銘を与えたが、今回のそれはヴァン・ゴッホ財団理事長で、画家の甥に当たるヴィンセント・ウィレム・ヴァン・ゴッホ氏をはじめとする関係者の協力のもとにアムステルダムの国立ヴァン・ゴッホ美術館から借り出された作品で構成されている。前回が油彩画中心であったのに対し、今回は油彩画は18点にとどめ、デッサン、水彩に重点がおかれている。ゴッホはその生涯に800余点の油彩画と900余点の水彩、デッサンを残しているが、これらの水彩、デッサンは時に油彩画と密接な関係を保ちながら独自の魅力をたたえ、近代絵画史上、セザンヌのそれに劣らぬ重要な地位を占めている。にもかかわらずこれらが質的にも量的にも十分な形で我が国で一般に公開されたことは今までなく、それだけにとかく油彩画の陰にかくれて十分に理解されることの少なかったヴァン・ゴッホのデッサン芸術がこのような形で一堂に集められたことの意味は一層大きなものがあつた。

巡回展記録



＊松方コレクション展

1976年10月9日～11月7日

主催：国立西洋美術館・鳥取県・鳥取県教育委員会・鳥取県立博物館

会場：鳥取県立博物館

出品内容＝絵画（水彩，デッサンを含む）55点，

彫刻 15点

講演会記録

「全米美術館収集世界名作展」記念特別講演会

1976年9月11日

＜アメリカの美術館とそのコレクションについて＞

クリーヴランド美術館長 シャーマン・リー

9月18日

＜アルカイック彫刻の美＞

早稲田大学教授 沢柳大五郎

9月25日

＜美術における中世の秋＞

清泉女子大学教授 辻 成史

10月2日

＜エル・グレコからゴヤまで＞

上智大学教授 神吉敬三

所蔵作品の修復記録

——昭和51年4月より昭和52年3月まで——

「ヴァン・ゴッホ展」特別講演会

1976年9月4日

映画〈ヴァン・ゴッホの生涯〉(オランダ政府制作)

解説

ブリヂストン美術館長 嘉門安雄

9月11日

〈アルルのひまわり〉

東京大学助教授 高階秀爾

9月18日

〈ゴッホと浮世絵〉

美術評論家 瀬木慎一

9月25日

〈芸術と狂気——ゴッホの場合〉

精神病理学者 徳田良仁

10月2日

〈ゴッホの手紙について〉

美術評論家 宇佐見英治

10月9日

〈ゴッホ巡礼〉

作家 小川国雄

10月16日

〈ゴッホの作品から〉

国立西洋美術館主任研究官 千足伸行

(各回ともブリヂストン美術館と共催、於ブリヂストンホール)

1 クロード・モネ

《並木道》(P・1959—147)

1865~67年 油彩 カンヴァス 82×46 cm

状態概要：既に洗浄され、裂傷部分は蜜蝋の含浸によって再固定されたが(ジャック・マレシャル氏による修復)、裏打ちに用いられている接着材が吸湿性のものであるために、伸縮の動きを呈するカンヴァスと非吸湿性となった裂傷の固定部分の間に歪みを生じて、裂傷部分がもちあがって目立つようになった。それと共に裂傷部分の欠損した絵具層の充填に使用された白亜と膠を練り合わせた充填材に亀裂を生じてきた。裏打ち用の麻布自体も経年による劣化がみられる。

修復処置：裏打ち用麻布の除去と裏打ちに用いられた古い接着材(小麦・ライ麦・膠)の除去。古い充填材の除去。全面的な再裏打ち(蜜蝋・樹脂の混合接着材による)。画面の洗浄。欠損箇所の充填(胡粉とティタニウム・ホワイトの顔料をポリビニールアルコールで練り合わせた充填材)、および充填部分の蜜蝋・樹脂による含浸。同部分の補彩(デトランプ、テレビン精油で希釈した油絵具による)。保護膜塗布(スプレー・タイプのタブロー・ニス使用)。

2 クロード・モネ

《舟遊び》(P・1959—148)

1887年 油彩 カンヴァス 145×132 cm

状態概要：水面に映る人物と舟の投影をあらわす絵具層にひび割れが散見し、その一部に剝離が生起していた。既にその部分は蜜蝋・樹脂の混合接着材を含浸することによって固定処置をほどこしたが(当美術館年報 No. 10, 1976年, p. 91 参照)、カンヴァスが劣化しており、絵具層の厚みに対して大画面を支えるには耐久力が充分ではなく、移動時等の震動に対しても不充分であった。絵具層の一部に数箇所、表層のみの亀裂と、さらにその一部の剝落がみとめられた。

修復処置：蜜蝋・樹脂の混合接着材による全面裏打ち。

画面の洗浄（テレピン精油，アルコールによる）。欠損箇所は蜜蝋・樹脂による充填と補彩。保護膜の塗布（スプレー・タイプのセミ・マット・タブロー・ニス使用）。

3 カミーユ・ピサロ

《エラニーの秋》（P・1959—164）

1895年 油彩 カンヴァス 38×46 cm

状態概要：画面下部に絵具の剝離，3箇所。

修復処置：蜜蝋・樹脂の混合接着材による剝離箇所の固定。

4 カミーユ・ピサロ

《冬景色》（P・1959—166）

1873年 油彩 カンヴァス 52×81 cm

状態概要：ニスの黄変。既に洗浄を受けているが，筆触の凹みに黄変ニスが残存していて，印象派の明るい画調を損ねている。

修復処置：アルコール，テレピン精油，弱アンモニアによる黄変ニスの除去。保護膜（スプレー・タイプのセミ・マット・タブロー・ニス）の塗布。補彩。保護膜塗布（スプレー・タイプのセミ・マット・タブロー・ニス使用）。

5 ビエール・オーギュスト・ルノワール

《帽子の女》（P・1959—181）

1891年 油彩 カンヴァス 56×46 cm

状態概要：画面下部の既存の修復箇所の充填部分が，乾燥などの原因によって，剝離した。

修復処置：蜜蝋・樹脂の混合接着材による剝離箇所の固定。

6 ビエール・オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のバリの女たち》（P・1959—182）

1872年 油彩 麻布 157×130 cm

状態概要：プルシャンブルーの筆触に微細な亀裂が生じ，剝離ないし剝落を生じた。背景の赤ないし茶褐色の絵具層に剝離が散見された。

修復処置：蜜蝋・樹脂の混合接着材による剝離箇所の固定。微細な欠損部分は前記の接着材によって充填し，補彩。

7 ジョン・エヴァリット・ミレイ

《あひるの子》（P・1975—4）

1889年 油彩 カンヴァス 122×77.5 cm

状態概要：保護膜が著しく黄変していた。絵具層は，僅かの欠損箇所を除き，保存状態は良好。

修復処置：黄変ニスの除去（アルコール，テレピン精油使用）。欠損箇所の充填（胡粉およびチタニウム・ホワイトの顔料をポリビニールアルコールで練り合わせた充填材）。

（以上は黒江光彦氏提供の資料に基いて作成した。）